

平成30年度 新技術・新工法説明会

新技術の概要について

九州地方整備局

本日の説明内容

1. 新技術活用システムの概要
2. 掲載期間終了技術の取り扱い
3. 新技術の活用状況

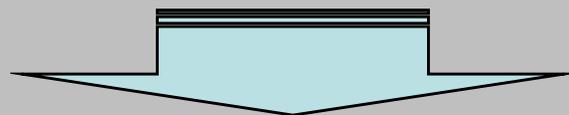
1. 新技術活用システムの概要

◆新技術の目的◆

新技術の目的

◆新技術の積極的な活用促進

 民間事業者等による
技術開発の促進、優れた技術創出



- 公共事業等の品質確保
- 良質な社会資本の整備や維持管理
- 防災対策に寄与

この目的達成の仕組みが「新技術活用システム」

◆新技術活用における期待される効果◆

新技術活用における期待される効果

【発注者】

- コスト縮減を踏まえた
工事の発注
- 事業のスピードアップ
- 適切な品質確保
- 維持管理の効率化

【施工者】

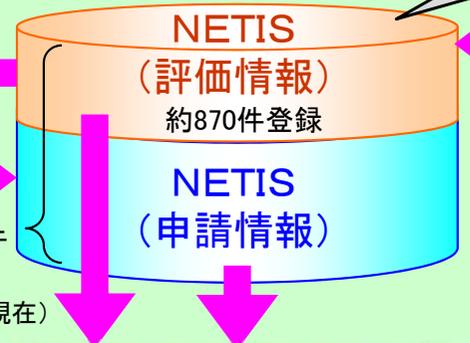
- 工事効率化等による工期短縮
- 適切な管理による品質確保
- 省エネルギー、省資源化

◆新技術活用システムの全体フロー◆

公共工事等における新技術活用システム

新技術データベース『NETIS』
Web上で情報提供
<http://www.netis.mlit.go.jp>

評価結果をフィードバック



評価担当の地方整備局
有識者会議

技術評価 ※3
技術の成立性や活用効果などを総合的に評価

【有用な技術とは】
「推奨技術」「準推奨技術」
「評価促進技術」
「活用促進技術」

開発者

技術開発の改良 → 実用化
技術の開発 → 実用化

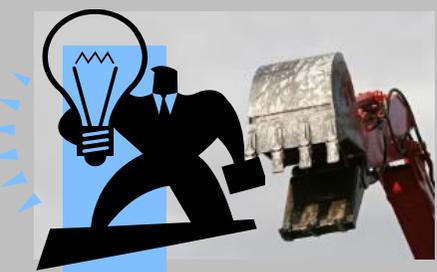
登録 ※1
公共工事等に関する、実用化された技術を申請、登録

活用 ※2
直轄工事、業務等において、施工条件に適した新技術を活用

○プロセスと活用方式との関係

設計段階	契約手続き	契約後	施工段階	変更契約	施工完了
<p>発注者指定型 (設計比較検討) ※1</p> <p>活用促進型[試行] (九州のフィールドに 適応した未評価技術を募集) ※3</p> <p>フィールド提供型 (テーマを設定し技術募集)</p> <p>テーマ設定型(技術公募) [求める技術募集テーマ等を明確にし たうえで、技術提案の募集]</p>	<p>※2 施工者希望型 (総合評価方式)</p>	<p>※2 ※3 試行申請型 (試行申請技術を発注者が指定)</p>	<p>※2 施工者希望型 (契約後VE、施工承諾)</p>	<p>※2 施工者希望型 (契約後VE、施工承諾)</p>	
<p>※1 活用促進型[試行] 九州地方整備局独自の取り組みとして、九州のフィールドに適応した未評価の新技術を募集し、その技術の中から効果が高いと想定される技術を発注者指定型で活用</p> <p>※2 インセンティブの付与 ・工事成績加点対象 ・総合評価点方式の技術提案において加点対象</p> <p>※3 事前審査が必要 事前審査とは、活用前に技術の成立性や、直轄工事等における活用の妥当の確認を行い、NETIS(評価情報)へ登録</p>					

新たな新技術
開発者の拡大



NETIS 新技術情報提供システム
New Technology Information System

NETISとは | 新技術の検索 | 新技術の最新情報 | 新技術の申請方法 | NETISのRSS配信 | RSS | サイトマップ

NETIS維持管理支援サイト
点検・維持管理に資する技術を広く情報提供することで、点検・維持管理の現場における活用を支援します。

NETIS震災復旧・復興支援サイト
震災復旧・復興に資する技術を広く情報提供することで、震災復旧・復興の現場における活用を支援します。

NETISとは
国土交通省は、新技術の活用のため、新技術に関わる情報の共有及び提供を目的として、新技術情報提供システム (New Technology Information System:NETIS)を整備しました。NETISは、国土交通省のイントラネット及びインターネットで運用されるデータベースシステムです。
パンフレット: [公共工事等における新技術活用システム](#)
パンフレット: [公共工事等における新技術活用システム\(開発者、施工者、発注者向け\)](#)

◎「公共工事における新技術活用システム」について、この度改定を行ってより運用しますので、関係文書を掲載します。
○公共工事等における新技術活用の促進について、平成26年3月28日
○「公共工事等における新技術活用システム」実施要領について、平成26年3月28日 実施要領別紙

新技術情報の登録件数他
評価情報:869件 申請情報:2899件
推奨技術(5件) 準推奨技術(11件) 評価促進技術(2件) 活用促進技術(163件)
旧実施要領での技術の位置付け
活用促進技術(旧)(9件) 設計比較対象技術(31件)

新技術の検索
キーワード入力
検索
 評価情報 申請情報
 AND条件(全文検索)
 OR条件(同義語検索)
[AND条件、OR条件とは...](#)
工種で検索 条件で検索

有用な新技術の選択
 推奨技術 準推奨技術 評価促進技術 活用促進技術
旧実施要領での技術の位置付け
 活用促進技術(旧) 設計比較対象技術 少実績優良技術

キーワードで検索できます。

各種新技術の登録件数を表示、各件数は定期的に増減します。

工種や条件で検索できます。

チェックして検索すると、有用な技術が表示されます。

◆ NETIS の検索と閲覧方法 ◆

NETIS 登録番号

登録地整 登録年度 順番 情報種別
QS - 17 0001 - A or **V or VR** or **VE**

事前審査

「試行申請型」、「フィールド提供型」、「テーマ設定型（技術公募）」（事後評価未実施技術の場合、必要に応じて実施）、の場合又は発注事務所からの依頼があった場合、申請情報等に基づき技術の成立性や直轄工事等における活用の妥当性を確認する審査のことをいう。

登録地整

QS : 九州地整 KT : 関東地整
 SK : 四国地整 HR : 北陸地整
 CG : 中国地整 TH : 東北地整
 KK : 近畿地整 CB : 中部地整
 HK : 北海道開発局
 OK : 沖縄総合事務局

※QSKなど3桁目に「K」がついているものは、「港湾NETIS」の登録技術

情報種別

A: Application(アプリケーションの頭文字) = 申請
 申請情報のみ掲載されている技術
 (評価されていない技術)

V: Value(バリューの頭文字) = 評価
 申請情報に対する評価情報が掲載されている技術
 (評価され継続調査等の技術)

VR: ("Re"の頭文字)
 活用効果評価を実施した技術のうち継続調査等の対象となった技術
 (評価され継続調査等の技術)

VE: ("End"の頭文字)
 活用効果評価を実施した技術のうち継続調査等の対象としない技術
 (評価されて継続調査等なしの技術)

事後評価

活用後に技術の成立性や活用効果などを総合的に評価することをいう。

試 行 実 証 評 価

活 用 効 果 評 価

継続調査等の対象

継続調査等の対象外

ものづくり 日本大賞	国産技術 開発賞	建設技術 審査証明 ※	他機関の 評価結果	2017.05.31 現在	
			有	ページ印刷用表示 一括印刷用表示	
技術 名称	〇〇〇〇工法		事後評価済み技術 (2016.02.03)	登録No. QS-●●●●●●	
事前審査	事後評価		技術の位置付け(有用な新技術)		
	試行実証評価	活用効果評価	推奨 技術	準推奨 技術	評価促進 技術
		有		★ 平成28年度～	★ (2016.2.19～)
			旧実施要領における技術の位置付け		
			★ 平成23年度～	活用促進 技術(旧)	設計比較 対象技術
				少実績 優良技術	
	活用効果調査入力様式		適用期間等		
	-VE 活用効果調査は不要です。(フィ ールド提供型・テーマ設定型で 活用する場合を除く。)		平成28年5月19日～(評価促進技術)		

上記※印の情報と以下の情報は申請者の申請に基づき掲載しております。申請情報の最終更新年月日:2016.05.19

概要	従来技術との比較	特許・審査証明	単価・施工方法	問合せ先・その他	詳細説明資料
副題	△△△△工法			区分	工法
分類1	共通工 - 深層混合処理工 - 固結工 - セメントミルク攪拌工				
概要					
<p>①何について何を改善する技術なのか 軟弱地盤中にセメントスラリーを吐出させ、地盤を強化する技術。</p> <p>②従来はどのような技術で対応していたのか スラリー系ではCDM工法、粉体系ではDJM工法</p> <p>③公共工事のどこに適用できるのか 道路盛土等の滑り破壊防止、圧密沈下防止、タンク基礎、建築基礎、各種構造物基礎に適用可能。</p> <p>正逆回転機構を有する装置を用い、スラリー状のセメント系固化材と原地盤とを混合攪拌することにより、品質の高い改良体を造成する深層混合処理工法である。</p>					
新規性及び期待される効果					
<p>①どこに新規性があるのか(従来技術と比較して何を改善したのか?) 改良径を大口径化し、且つ、攪拌機構を正逆回転させることで改良土の共回りを防止した。</p> <p>②期待される硬質化は?(新技術活用のメリットは?)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大口径化による工程の短縮 ・大口径による経済性の向上 ・高トルクによる硬質地盤への適応が可能 ・高強度改良が可能 					
適用条件					
<p>①自然条件(気温等) 台風等の特殊気候以外は施工可能</p> <p>②現場条件 (作業スペース) 945~1520m² (プラント設置スペース) 200~260m² 狭隘地での施工が困難となる。ベースマシンの搬入出については、トレーラにより行うことから、3.5m以上の幅員を確保可能な搬入路が必要となる。</p>					
適用範囲					
<p>①適用可能な範囲 砂質土 N≦50 粘性土 N≦20 深度50m以下。</p> <p>②特に効果の高い適用範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・N値15以上の地盤 ・改良径2,500mmの適用が可能な深度15m以下の軟弱地盤 ・高強度改良(q_u≧1MN/m²以上) 					
留意事項					

技術の概要が記載されています。

ものづくり 日本大賞	国土技術 開発賞	建設技術 審査証明 ※	他機関の 評価結果	
			有	
技術 名称		〇〇〇〇工法		事後評価未実施技術
				登録No. QS-●●●●●●
事前審査	事後評価		技術の位置付け(有用な新技術)	
	試行実証評価	活用効果評価	推奨 技術	準推奨 技術
				評価促進 技術
				活用促進 技術
				★ 平成27年度～
				旧実施要領における技術の位置付け
			活用促進 技術(旧)	設計比較 対象技術
				少実績 優良技術
				適用期間等
				評価促進技術 H27.5.1～

事前審査、事後評価について「有」をクリックすると結果を閲覧できます。

有
click

有用な技術に指定されている場合は★印が表示されています。

上記※印の情報と以下の情報は申請者の申請に基づき掲載しております

概要 従来技術との比較 特許・審査証明 単価・施工方法 問合せ先・その他 詳細説明資料

活用の効果	
比較する従来技術	△△△△工法
項目	活用の効果
経済性	<input type="checkbox"/> 向上(%) <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 低下
工程	<input type="checkbox"/> 短縮(%) <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 増加
品質	<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 低下
安全性	<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 低下
施工性	<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 低下
	比較の根拠
	自地からの植生、低明度装飾のため、周辺環境との調和が図れる。
	深目地部に堆積した土砂からの植生、不規則なブロック面形状、低明度のブロックにより、周辺環境との調和が図れる。
コストタイプ	発散型:C(-)型
コストタイプの種類	

従来技術の確認
ができます。

閲覧したい項目をクリックします。【従来技術との比較】には、新技術開発者が一般的な条件での従来技術を設定し、新技術との比較を行った場合の効果および根拠などが掲載されています。

◆活用効果評価結果◆

活用効果評価一覧

登録番号: AA-*****-VE
 新技術名称: ○○○○○○工法

評価回数	活用効果評価ファイル	更新日
1回目	内容確認	2011/03/09
2回目	内容確認	2013/03/04
3回目	内容確認	2014/06/20
4回目	内容確認 クリック	2016/01/22

活用効果評価一覧が表示され、「内容確認」をクリックすると活用効果評価結果が閲覧できます。

活用効果評価結果 3回目

平成25年度

開発目標	安全・安心、環境、公共工事の品質確保・向上
新技術登録番号	AA-*****-VE
分類	区分 製品
新技術名	○○○○○○工法
比較する従来技術(従来工法)	表面塗布型製品
新技術の概要及び特徴	本技術は、アルカリ金属イオンを適性配合することで、コンクリート内部への浸透性を高め、水・水素イオン等のコンクリート内部への浸透を防止し、表面電位により塩化物イオン等の侵入の抑制を図る。
所見	<p>【設計比較対象技術】(総評) 一般的に申請情報の「活用の効果」と同様の評価となった。特に「工程」について高い評価が得られた。</p> <p>表面に塗布するだけであり、降雨時の施工も可能であることから、工程の短縮が図られている。</p>
留意事項	塗布後の洗浄が不十分の場合は塗布材料が表面で結晶化し、美観を損ねる場合がある。

活用効果評価における「所見」「留意事項」

活用効果調査結果

対象工事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	項目の平均(点)	従来技術(点)	
1 二線橋下部工工事																							H24
2 橋梁耐震補強工事																							H25
3 トンネル工事																							H25
4 橋梁上部工工事																							H24
5 高架橋橋梁補修工事																							H25
6 橋梁補修工事																							H25
7 橋梁上部工工事																							H25
8 橋梁上部工工事																							H25
9 橋梁上部工工事																							H25
10 橋梁床版外一連工事																							H25
11 道路構造物改良工事																							H25
12 トンネル舗装工事																							H25
13 橋梁補修他工事																							H25
14 高架橋PC上部工工事																							H23
15																							
16																							
17																							
18																							
19																							
20																							
経済性	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C
工程	B	A	A	C	B	A	A	A	C	A	A	A	A	C								B	C
品質・出来形	C	C	C	C	C	C	B	B	B	C	C	C	C	B	C							C	C
安全性	C	C	C	C	C	C	B	B	C	C	C	C	C	C								C	C
施工性	C	C	C	C	C	C	B	B	C	C	C	B	B	C								C	C
環境	C	C	C	C	C	C	B	B	C	C	C	C	C	C								C	C
その他																						-	-
施工時評価点	C	B	C	C	C	B	B	B	C	B	B	B	B	C								B	-
追跡調査																						-	-
総合評価点	C	B	C	C	C	B	B	B	C	B	B	B	B	C								B	-

◆ 有用な新技術 ◆

指定の区分

技術の定義

推奨技術

・公共工事等に関する技術の水準を一層高めるために選定された画期的な新技術

準推奨技術

・上記の推奨技術と位置づけるためには更なる発展を期待する部分がある新技術

評価促進技術

・他機関等の実績に基づき、公共工事等に関する技術水準等が高めることが見込める技術

活用促進技術

・総合的に活用の効果が優れている技術
・特定の性能又は機能が特に優れている技術
・特定の地域のみで普及しており、全国に普及することが有益と判断される技術
・その他評価会議が選考し指定する技術

平成26年4月1日より、従来の「活用促進技術」、「設計比較対象技術」、「少実績優良技術」を「活用促進技術」に統合

一般化・標準化技術

・公共工事等で使用する技術指針等に示される技術
・公共工事等の施工に当たり、一般的に選択し、活用されている技術
・その他システム検討会議が一般化・標準化に位置付けるべき新技術として判断する技術

※従来の実施要領により有用な新技術に位置付けられていた新技術について、NETIS 申請者は、「少実績優良技術」「設計比較対象技術」「〇〇年度活用促進技術（新技術活用評価会議（〇〇整備局））」「〇〇年度 推奨技術」又は「〇〇年度 準推奨技術」という名称を使用できる。

設計比較対象技術

・優位性が高く安定性が確認されている技術（従来の実施要領により決定されている技術は当該名称を使用できる）

少実績優良技術

・優位性は高いが、実績の少ない技術（従来の実施要領により決定されている技術は当該名称を使用できる）

2. NETIS掲載期間終了技術の 取り扱いについて

◆ 掲載期間終了技術とは ◆

①「掲載期間終了技術」とは

H28年度末・・・774件 (1998年～2006年登録技術を一斉に削除)

H29年度末・・・100件

NETIS登録技術が「掲載期間終了技術」となった。



NETIS掲載期間終了技術になると
どうなるのでしょうか？

NETIS掲載期間終了技術になると どうなるのでしょうか？

- NETISデータベースから削除
- NETIS技術ではなくなる。

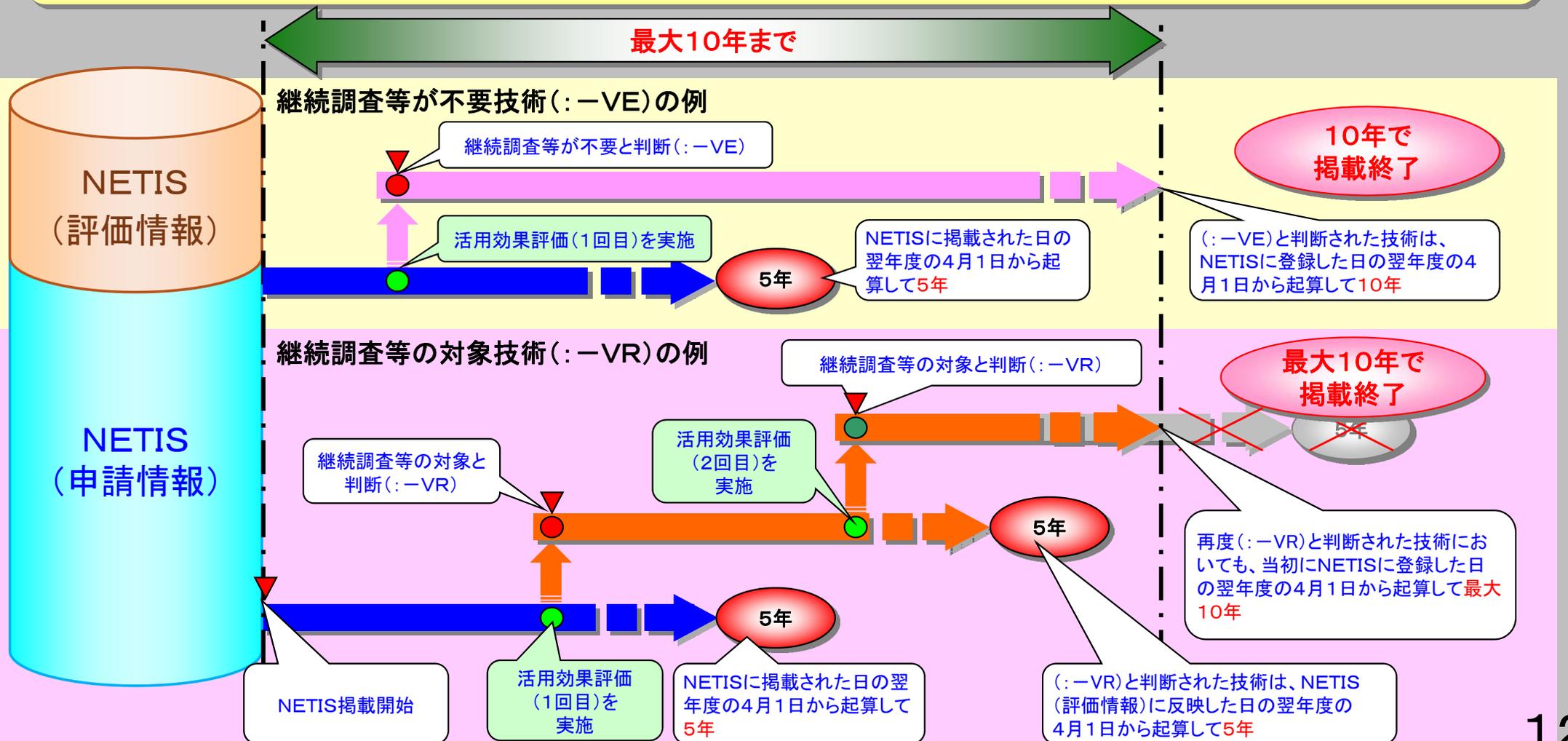


- ・直轄工事で活用してもインセンティブの対象外
- ・調査表等の提出不要

◆ NETIS掲載期間とは ◆

◆「『公共工事等における新技術活用システム』実施要領」に基づく申請書類の審査を実施し、確認出来た新技術についてNETISへ登録

- ◇NETISへの掲載期間は、NETISに掲載された日の翌年度の4月1日から起算して5年を経過した日までとする。
- ◇活用効果評価で(:-VE)と判断された技術は、当初にNETISに登録した日の翌年度の4月1日から起算して10年を経過した日までとする。
- ◇活用効果評価で(:-VR)と判断された技術は、NETIS(評価情報)に反映した日の翌年度の4月1日から起算して5年を経過した日までとする。ただし、2回目以降の活用効果評価で(:-VR)と判断された技術においても当初にNETISに登録した日の翌年度の4月1日から起算して最大10年を経過した日までとする。



◆ 今後の工法比較検討 ◆

② 今後の工法比較検討にあたって

- 設計業務での新技術新工法比較はどうなるのか？
- 掲載期間終了技術を活用したらダメなのか？



掲載期間終了技術も比較検討対象とするよう設計業務等
共通仕様書を改正

●改正後

第1209条

12. 受注者は、概略設計又は予備設計における比較案の提案、評価及び検討をする場合には、従来技術に加えて、新技術情報提供システム(NETIS)等を利用し、有用な新技術・新工法を積極的に活用するための検討を行うものとする。なお、従来技術の検討においては、NETIS掲載期限終了技術についても、技術の優位性や活用状況を考慮して検討の対象に含めることとする。

また、受注者は、詳細設計における工法等の選定においては、従来技術(NETIS掲載期限終了技術を含む)に加えて、新技術情報提供システム(NETIS)等を利用し、有用な新技術・新工法を積極的に活用するための検討を行い、調査職員と協議のうえ、採用する工法等を決定した後に設計を行うものとする。

●改正前

第1209条

12. 受注者は、概略設計又は予備設計における比較案の提案、もしくは概略設計における比較案を予備設計において評価、検討する場合には、新技術情報提供システム(NETIS)等を利用し、有用な新技術・新工法を積極的に活用するための検討を行うものとする。

また、受注者は、詳細設計における工法等の選定においては、新技術情報提供システム(NETIS)等を利用し、有用な新技術・新工法を積極的に活用するための検討を行い、調査職員と協議のうえ、採用する工法等を決定した後に設計を行うものとする。

共仕に記載の「優位性、活用状況を考慮」とは
どのようにすればよいのか？



「NETIS掲載期間終了技術リスト」
をNETISに掲載

＜掲載先＞

- NETIS新技術情報提供システム(NETIS)
(インターネット版)

◆ NETIS 掲載を終了した技術について ◆

➤ NETIS掲載期限を迎えた技術は、NETISホームページに「掲載終了予定技術」及び「掲載期間終了技術」のリストが掲載されます。**新技術活用前に必ず確認してください。**

NETIS 新技術情報提供システム
New Technology Information System

NETISとは | 新技術の検索 | 新技術の最新情報 | 新技術の申請方法 | NETISのRSS配信 RSS サイトマップ

NETIS維持管理支援サイト
点検・維持管理に資する技術を広く情報提供することで、点検・維持管理の現場における活用を支援します。

NETIS震災復旧・復興支援サイト
震災復旧・復興に資する技術を広く情報提供することで、震災復旧・復興の現場における活用を支援します。

NETISのしくみ
国土交通省は、新技術の活用のため、新技術に関わる情報の共有及び提供を目的として、新技術情報提供システム (New Technology Information System) NETIS を整備しました。NETISは、国土交通省のイントラネット及びインターネットで運用されるデータベースシステムです。
パンフレット:公共工事における新技術活用システム
パンフレット:公共工事における新技術活用システム(開発者、施工者、コンサルタント向け)

◎「公共工事における新技術活用システム」について、この度改定を行いましたので、関係文書を掲載します。
○公共工事における新技術活用の促進について、平成26年9月28日
○「公共工事における新技術活用システム」実施要領について、平成30年5月24日 実施要領別紙

新技術情報の登録件数
評価情報:1878件 申請情報:2742件
推奨技術(9件) 準推奨技術(16件) 評価促進技術(9件) 活用促進技術(170件)
旧実施要領での技術の位置付け
活用促進技術(旧) 設計比較対象技術(31件) 少実績優良技術(4件)

新技術の検索
キーワード入力
検索
AND条件(全文検索) OR条件(同義語検索) 工種で検索 条件で検索
AND条件、OR条件とは...

有用な新技術の選択
 推奨技術 準推奨技術 評価促進技術 活用促進技術
旧実施要領での技術の位置付け
 活用促進技術(旧) 設計比較対象技術 少実績優良技術

評価情報が掲載されていない技術(←A)
 評価情報が掲載されている技術(←V)
 評価情報が掲載されており、かつ継続調査の対象とならない技術(←VE)
 評価情報が掲載されており、かつ継続調査の対象となった技術(←VR)

新技術の最新情報
記者発表資料 過去の記者発表資料はこちら **What's New** 過去のWhat's Newはこちら

・「熟練に習得し、終結までの高度なスキルを把握できる技術」の要求性能に対する意見募集について～新技術の活用に向けて～(中部地方整備局)(平成30年9月5日)
・道路橋点検記録作成支援ロボット技術に関する評価指標を公表し、技術公募を行います。～新技術情報提供システム(NETIS)テーマ設定型(技術公募)の実施～(九州地方整備局)(平成30年9月24日)
・道路トンネル点検記録作成支援ロボット技術に関する評価指標を公表し、技術公募を行います。～新技術情報提供システム(NETIS)テーマ設定型(技術公募)の実施～(北陸地方整備局)(平成30年7月19日)
・平成30年度推奨技術等選定技術選定 ～公共工事等における新技術活用システムの取組～(平成30年5月31日)

・NETIS登録の迅速化を図るため、NETIS登録申請を支援する団体を周知します。
「NETIS登録申請を支援する団体」2018.7.30
・平成29年度末でNETIS掲載期限を迎えた295技術について、NETIS掲載を終了します。「平成30年10月に掲載終了となった技術リスト」引き続き、「NETIS掲載期間終了技術リスト」にて技術名称等の提供は行っております。2018.10.18
・実施規約に基づき、1件の技術についてNETIS掲載を中止します。2018.10.18
・11月15日(木)にデータメンテナンスを予定しています。一時、閲覧ができない時間帯がございます。ご了承ください。2018.10.18
・公開NETISのデータ(10月分)を更新しました。2018.10.18
・NETIS掲載期間終了技術リストを更新しました。2018.9.20
・平成29年度末にNETIS掲載期限を迎え、NETISより削除を行う予定の「平成30年10月に掲載終了となる技術」リスト(予定)を掲載しました。10月19日に削除を行います。2018.9.13
・10月18日(木)にデータメンテナンスを予定しています。一時、閲覧ができない時間帯がございます。ご了承ください。2018.9.13
・公開NETISのデータ(9月分)を更新しました。2018.9.13
・9月13日(木)にデータメンテナンスを予定しています。一時、閲覧ができない時間帯がございます。ご了承ください。2018.8.16
・公開NETISのデータ(8月分)を更新しました。2018.8.16
・NETIS掲載期間終了技術リストを更新しました。2018.7.19
・実施規約に基づき、1件の技術についてNETIS掲載を中止します。2018.7.19
・8月16日(木)にデータメンテナンスを予定しています。一時、閲覧ができない時間帯がございます。ご了承ください。2018.7.19
・公開NETISのデータ(7月分)を更新しました。2018.7.19
・実施規約に基づき、2件の技術についてNETIS掲載を中止します。2018.6.14
・7月19日(木)にデータメンテナンスを予定しています。一時、閲覧ができない時間帯がございます。ご了承ください。2018.6.14
・公開NETISのデータ(6月分)を更新しました。2018.6.14

新技術の申請方法



NETIS 新技術情報提供システム
New Technology Information System

NETISとは | 新技術の検索 | 新技術の最新情報 | 新技術の申請方法 | NETISのRSS配信 RSS サイトマップ

What's New

- NETIS登録の迅速化を図るため、NETIS登録申請を支援する団体を周知します。
「NETIS登録申請を支援する団体」2018.7.30
- 平成29年度末でNETIS掲載期限を迎えた295技術について、NETIS掲載を終了します。「平成30年10月に掲載終了となった技術リスト」引き続き、「NETIS掲載期間終了技術リスト」にて技術名称等の提供は行っております。2018.10.18
- 実施規約に基づき、1件の技術についてNETIS掲載を中止します。2018.10.18
- 11月15日(木)にデータメンテナンスを予定しています。一時、閲覧ができない時間帯がございます。ご了承ください。2018.10.18
- 公開NETISのデータ(10月分)を更新しました。2018.10.18
- NETIS掲載期間終了技術リストを更新しました。2018.9.20
- 平成29年度末にNETIS掲載期限を迎え、NETISより削除を行う予定の「平成30年10月に掲載終了となる技術」リスト(予定)を掲載しました。10月19日に削除を行います。2018.9.13
- 10月18日(木)にデータメンテナンスを予定しています。一時、閲覧ができない時間帯がございます。ご了承ください。2018.9.13
- 公開NETISのデータ(9月分)を更新しました。2018.9.13
- 9月13日(木)にデータメンテナンスを予定しています。一時、閲覧ができない時間帯がございます。ご了承ください。2018.8.16
- 公開NETISのデータ(8月分)を更新しました。2018.8.16
- NETIS掲載期間終了技術リストを更新しました。2018.7.19
- 実施規約に基づき、1件の技術についてNETIS掲載を中止します。2018.7.19
- 8月16日(木)にデータメンテナンスを予定しています。一時、閲覧ができない時間帯がございます。ご了承ください。2018.7.19
- 公開NETISのデータ(7月分)を更新しました。2018.7.19
- 実施規約に基づき、2件の技術についてNETIS掲載を中止します。2018.6.14
- 7月19日(木)にデータメンテナンスを予定しています。一時、閲覧ができない時間帯がございます。ご了承ください。2018.6.14
- 公開NETISのデータ(6月分)を更新しました。2018.6.14

◆ 掲載期間終了技術の優位性、活用状況の確認方法 ◆

NETISシステム ⇒ 掲載期間終了技術リストを掲載

NETIS掲載期間終了技術リスト

H30.10 更新

- ・「公共工事における新技術活用システム実施要領」（以下、「実施要領」という）で定めるNETIS掲載期間を終了した技術を掲載します。
ただし、平成27年度以前に掲載期間を終了した技術で、申請者に掲載意思の確認が取れていない技術は掲載していません。
- ・掲載されている技術は、実施要領で定める技術ではありませんので、実施要領でいう「新技術の活用」の対象とはなりません。
- ・掲載されている技術に関する情報は、NETIS掲載期間終了後から更新しません。

※評価済みの技術については、「活用状況」欄にNETIS掲載期間内の大まかな活用件数を記す。☆=500件以上、◎=100件以上、○=50件以上、□=20件以上

番号	NETIS登録時の技術名称	IBNETIS番号	分類1	分類2	開発会社(問合せ先) <small>※()内の開発会社名は、掲載期間終了後、登録申請者からの報告に基づく情報です。 内容について国交省が責任を有するものではありません。</small>	技術の優位性 (技術の位置付け)	※ 活用状況	NETISからの 削除日
1923	ジョイントテックスCT-400	KT-070054-VE	コンクリート工		株式会社ノックス	[活用促進]	☆	H30.3.31
1924	カプセルブリズム型高輝度路上工事用標示板(工事看板)	TH-070005-VE	仮設工	付属施設	スリーエム ジャパン株式会社、スリーエム ジャパン プロダクツ株式会社	評価済み	☆	H30.3.31
1925	軟弱地盤動態観測システム	HK-070014-V	共通工	調査試験	株式会社 岩崎、岩崎レンタルサービス株式会社	[活用促進]	◎	H30.3.31
1926	ケイ酸質リチウム系コンクリート改質剤「Osma」	HK-070015-VR	コンクリート工	道路維持修繕工	株式会社リナック八千代	評価済み	◎	H30.3.31
1927	情報共有システム [information bridge]	HR-070031-VE	CALS関連技術		株式会社 アイサス	評価済み	◎	H30.3.31
1928	抵抗板付鋼製杭基礎(ボールアンカー100型)	KK-070008-VE	基礎工	付属施設	日本地工株式会社	[H22準推奨][活用促進]	◎	H30.3.31
1929	MK-エボザク	KK-070023-VE	コンクリート工	橋梁上部工	株式会社 明希、パンフィックコンサルタンツ株式会社	評価済み	◎	H30.3.31
1930	無溶剤タイプジェル状シラン系表面含浸材	KT-070047-VR	道路維持修繕工	道路維持修繕工	住友精化株式会社	[設計比較][活用促進]	◎	H30.3.31
1931	断熱養生シートによる断熱養生工法	KT-070067-VE	コンクリート工	コンクリート工		[活用促進]	◎	H30.3.31
1932	生コンクリート改質材	KT-070086-VE	コンクリート工					H30.3.31

“優位性”と“活用状況”を考慮して比較検討する

◆ 掲載期間終了技術の活用効果調査表について ◆

「活用計画書・報告書」、「活用効果調査表」は、提出するのか？



提出書類 \ 情報種別	VE	A・V・VR	掲載期間 終了技術
計画書・実施報告書	要	要	不要
活用効果調査表	不要	要	不要

- ・掲載終了以前に提案した技術は注意が必要
- ・九州技術事務所HP ポータルサイトのQ&Aを参照

◆ 掲載期間終了技術のインセンティブ ◆

(1) 総合評価方式における評価点(加算点)について

- ・掲載期間終了技術は、評価点(加算点)の**対象としない**。
- ・**技術提案書の提出時点**で、NETISの**HPに掲載**されている新技術は**加点対象**とする。

(2) 工事成績評定における採点(加点)について

- ・掲載期間終了技術は、工事成績評定(加点)の**対象としない**。
- ・**技術提案書または新技術活用計画書の提出時点**で、NETISの**HPに掲載**されている新技術は**加点対象**とする。

九州技術事務所HP ポータルサイト「Q&A」

NETIS掲載期間を迎えた終了技術の取り扱い

		NETIS削除日	活用計画書 実施報告書 活用効果調査表※1	工事成績 評価	
Case 1 【発注者指定型】 ◆特記仕様書でNETIS技術として指定する	公告・契約 <NETIS技術指定>	※2 活用計画書	活用	要 加点無し	
Case 2 【発注者指定型】 ◆特記仕様書で掲載期限終了技術を工法指定する			公告・契約 <工法指定>	NETIS技術ではないので調査は不要 不要 加点無し	
※掲載期間終了後はNETIS技術でなくなるので工法指定					
Case 3 【施工者希望型】 ◆掲載期間中にNETIS技術を総合評価にて技術提案	公告・契約 <総合評価にて技術提案>	※2 活用計画書	活用	要 加点対象	
Case 4 【施工者希望型】 ◆掲載期間中にNETIS技術を契約後提案	契約	施工者希望型 (施工計画書で提案)	※2 活用計画書	活用	要 加点対象
Case 5 【施工者希望型】 ◆掲載期間終了後に技術提案	契約		施工者希望型 (施工計画書で提案)	NETIS技術ではないので調査は不要 不要 加点無し	
※掲載期間終了後はNETIS技術の活用とならない					

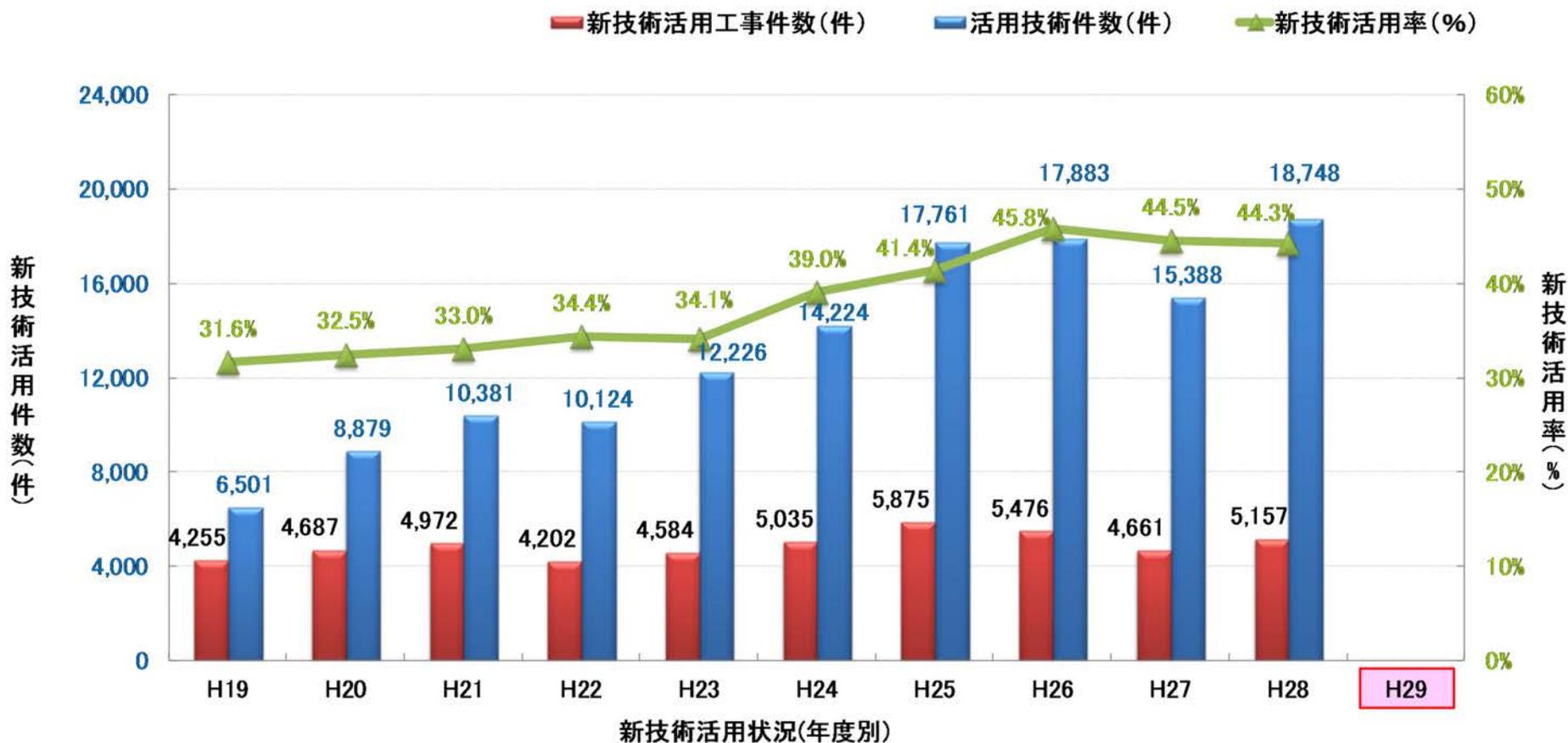
※1 「要」となっている場合でも、-VE技術については、活用効果調査書の提出は不要

※2 Case 1、3、4において、活用計画書の提出がNETIS削除日を超えた場合においても新技術としての取り扱いとなる

3. 平成29年度九州地方整備局における 新技術の活用状況等

◆全国における新技術活用状況の推移◆

➤ 平成28年度の新技術活用率は44.3%で過去3番目の高水準で、4年連続で40%超え



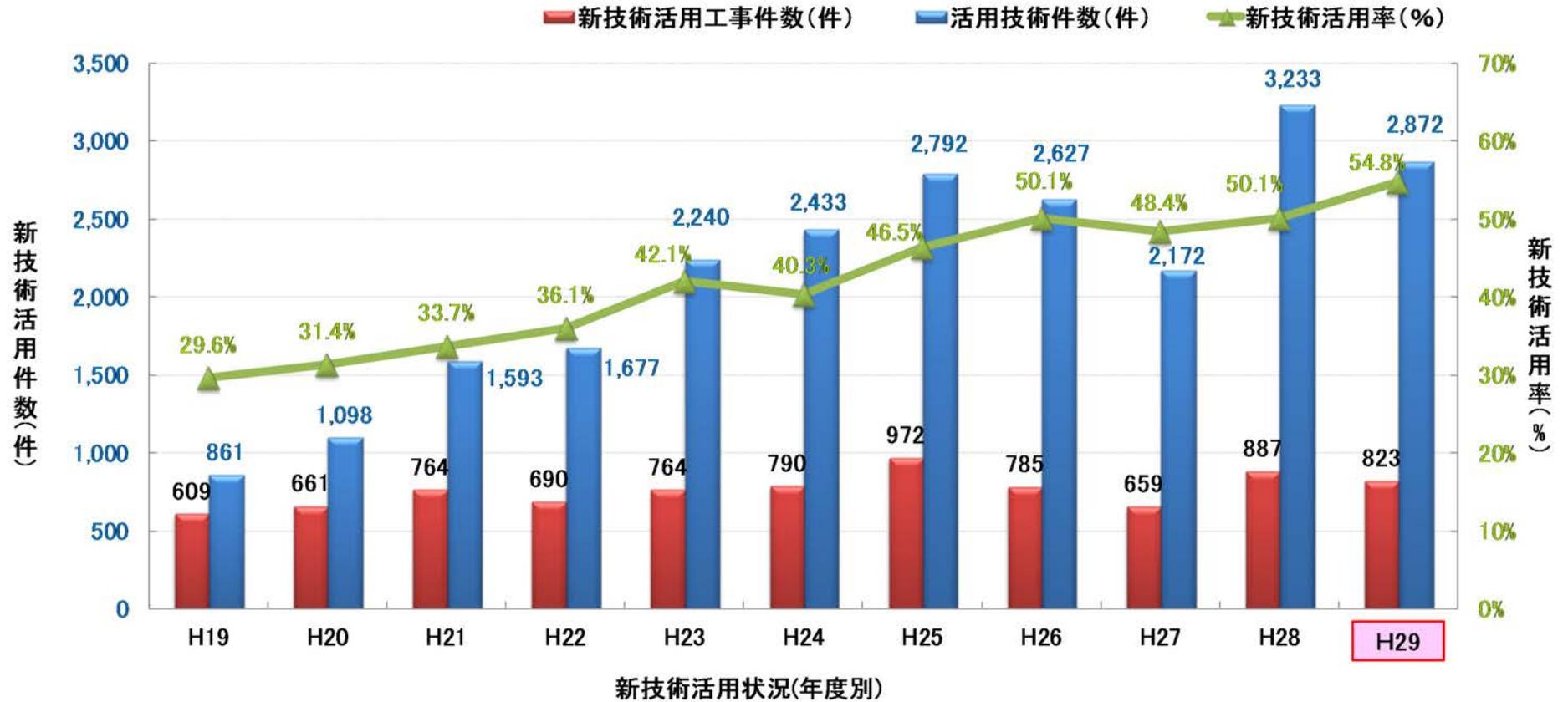
全国	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
総工事件数(件)	13,453	14,435	15,051	12,227	13,444	12,910	14,194	11,945	10,469	11,654	
新技術活用工事件数(件)	4,255	4,687	4,972	4,202	4,584	5,035	5,875	5,476	4,661	5,157	未公表
活用技術件数(件)	6,501	8,879	10,381	10,124	12,226	14,224	17,761	17,883	15,388	18,748	未公表
新技術活用率(%)	31.6%	32.5%	33.0%	34.4%	34.1%	39.0%	41.4%	45.8%	44.5%	44.3%	未公表
1工事当たりの活用新技術数	0.48	0.62	0.69	0.83	0.91	1.10	1.25	1.50	1.47	1.61	未公表

新技術活用率 = 新技術活用工事件数 / 総工事件数

※平成29年度は公表されていない

◆九州地方整備局における新技術活用状況の推移◆

➤ 平成29年度の新技術活用率は54.8%で過去最高の水準となり、7年連続で40%超え



九州	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
総工事件数(件)	2,054	2,107	2,264	1,913	1,816	1,961	2,092	1,566	1,362	1,772	1,502
新技術活用工事件数(件)	609	661	764	690	764	790	972	785	659	887	823
活用技術件数(件)	861	1,098	1,593	1,677	2,240	2,433	2,792	2,627	2,172	3,233	2,872
新技術活用率(%)	29.6%	31.4%	33.7%	36.1%	42.1%	40.3%	46.5%	50.1%	48.4%	50.1%	54.8%
1工事当たりの活用新技術数	0.42	0.52	0.70	0.88	1.23	1.24	1.33	1.68	1.59	1.82	1.91

新技術活用率 = 新技術活用工事件数 / 総工事件数

◆新技術の活用状況（活用の型）◆

発注者指定型

発注者がこの新技術を使うように！ という場合

現場ニーズ等により必要となる新技術を対象に、**発注者の指定**により活用し、活用効果調査を行うタイプ

施工者希望型

施工者(受注者)から契約前・契約後にこの技術を使いたいと提案があった場合

施工者(受注者)からの提案に基づき、新技術を活用し、活用効果調査を行うタイプ

試行申請型

開発者の申請により試行現場を照会し、活用を行う場合

技術の成立性等を事前に審査し、**申請者(技術開発者)からの申請**により試行現場を照会し、試行調査及び活用効果調査を行うタイプ

フィールド提供型

発注者がニーズにあった新技術を募集し、その技術の中から効果が高いと想定される技術を使ってみようという場合

民間から新技術を募集し、選考した技術を活用し、試行調査および活用効果調査を行うタイプ

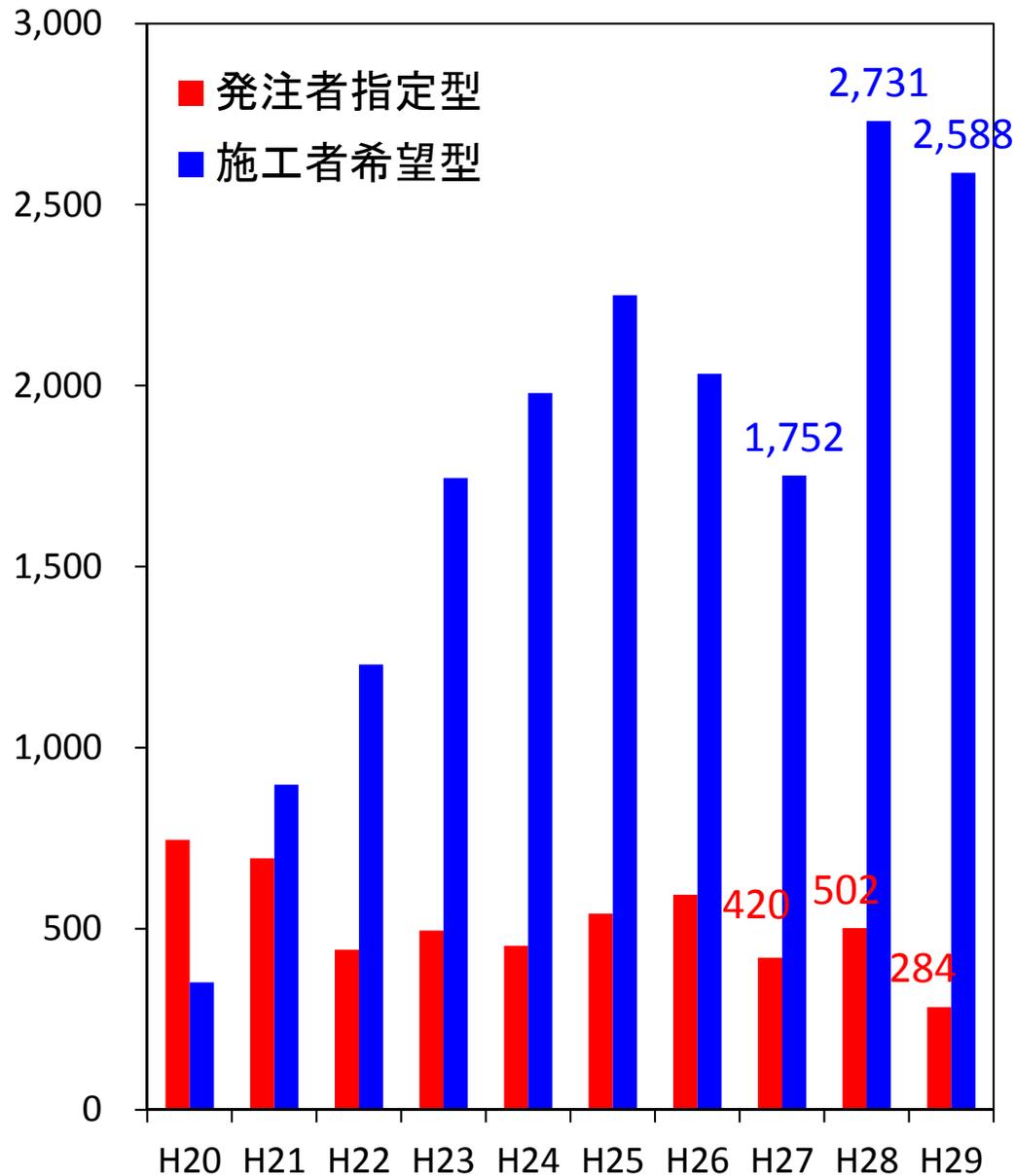
テーマ設定型(技術公募)

直轄工事等における現場ニーズ・行政ニーズ等により、求める技術募集テーマ等に基づき、民間事業者等から技術提案の募集を行い活用する場合

民間から新技術を募集し、応募されたNETIS登録技術を対象に活用を行い、試行調査および活用効果調査を行うタイプ

◆九州地方整備局における新技術活用状況◆

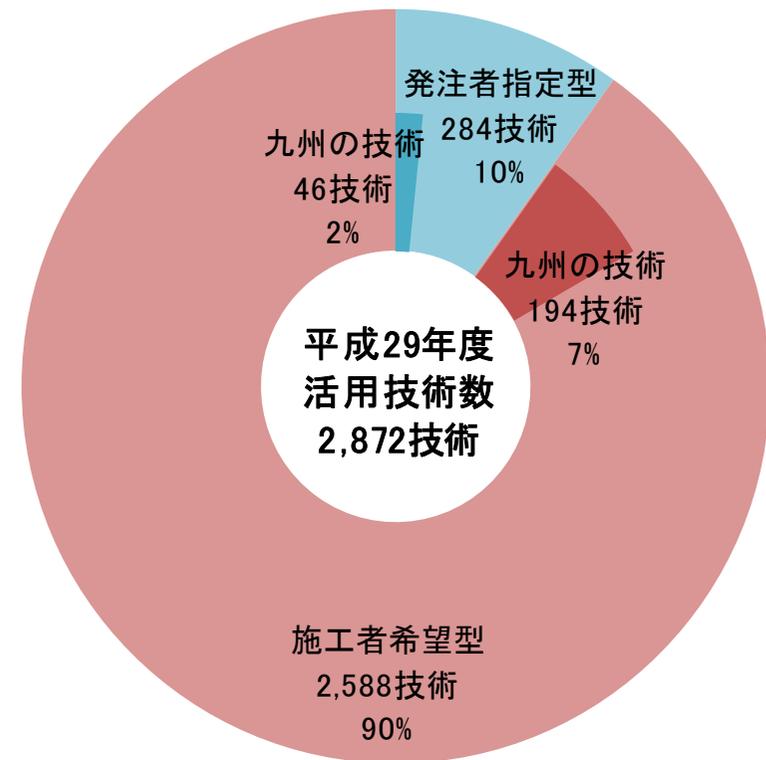
「活用の型」別の活用状況



施工者による提案が増加

活用促進のための取り組み

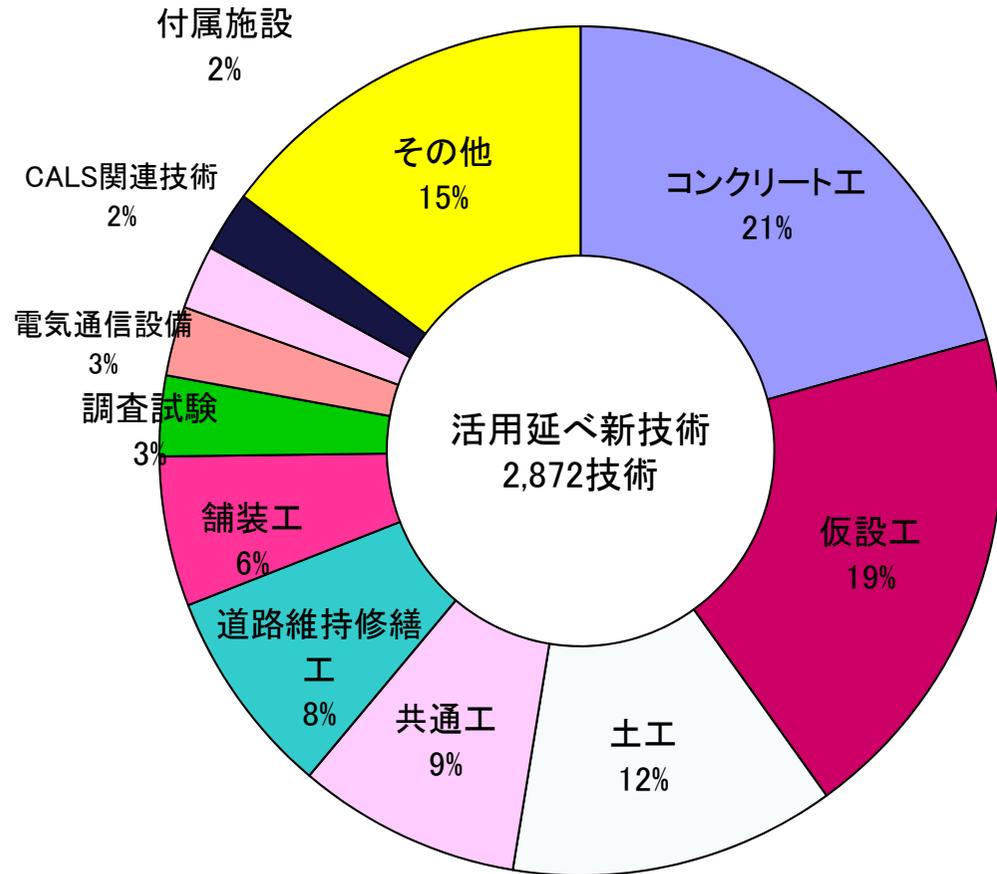
- ①総合評価方式における
技術提案への加点
- ②新技術を活用した場合に
工事成績評定で加点



※九州の技術:九州に登録され九州に本社を置く業者により開発された新技術

◆九州地方整備局における新技術活用状況（H29年度 活用件数の多い工種）◆

- ・九州地方整備局における平成29年度の新技術活用件数の工種別内訳は下記のとおりである。
- ・平成29年度において、活用述べ新技術数2,872件のうち、もっとも多くの新技術が使われた工種は、「コンクリート工」である。
- ・次いで、「仮設工」、「土工」、「共通工」、「道路維持修繕工」の順に、多く活用されている。



活用延べ新技術数の工種別内訳

順位	工種ランキング	活用件数 (延べ技術数)
1	コンクリート工	596
2	仮設工	555
3	土工	359
4	共通工	246
5	道路維持修繕工	228
6	舗装工	164
7	調査試験	88
8	電気通信設備	76
9	CALS関連技術	70
10	付属施設	66
	その他	424
	合計	2872

活用延べ新技術数の工種別内訳

◆平成29年度 九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術（発注者指定型）◆

▶発注者指定型で活用される新技術は、工法等工事の基幹となる技術が多い

発注者指定型における活用件数の多い新技術（平成29年度）

順位	NETIS登録番号	技術名	副題	工種	有用な技術 (平成30年6月末現在)
1	QS-120024-VE	改良芝品種「エルトロ」・「ビクトール」を用いたロール芝工法	維持管理コストを抑えた上での良質なターフの形成	共通工	
2	QS-110002-VE	アジャストーン	砕石場の副産物を規格化するとともに、コンクリート塊の再利用を促進した材料である	共通工	
3	KK-070008-VG	抵抗板付鋼製杭基礎(ポールアンカー100型)	道路標識柱及び道路照明柱用基礎	基礎工	準推奨技術 活用促進技術
4	QS-030004-VG	リベースジョイント工法	路床・路盤工にFe石灰系処理材を用いた長寿命化舗装	舗装工	
4	KT-070009-VG	ALiCC工法	低改良率セメントコラム工法	共通工	
4	CB-080011-VR	エポガードシステム	鍍転換型防食塗装	道路維持 修繕工	活用促進技術
4	QS-090004-VE	WILL工法(スラリー揺動攪拌工)	中層混合処理工法	共通工	活用促進技術
4	QS-130016-VE	固まる簡易舗装材 カタマSP	鉄鋼スラグを用いた散水・転圧で固まる簡易舗装材	舗装工	活用促進技術

※NETIS登録番号の末尾が「-AG」及び「-VG」の技術はNETIS掲載期間終了技術

◆平成29年度 九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術（施工者希望型）◆

▶平成29年度に施工者希望型として活用された新技術のうち、活用件数上位の新技術は以下のとおりです。

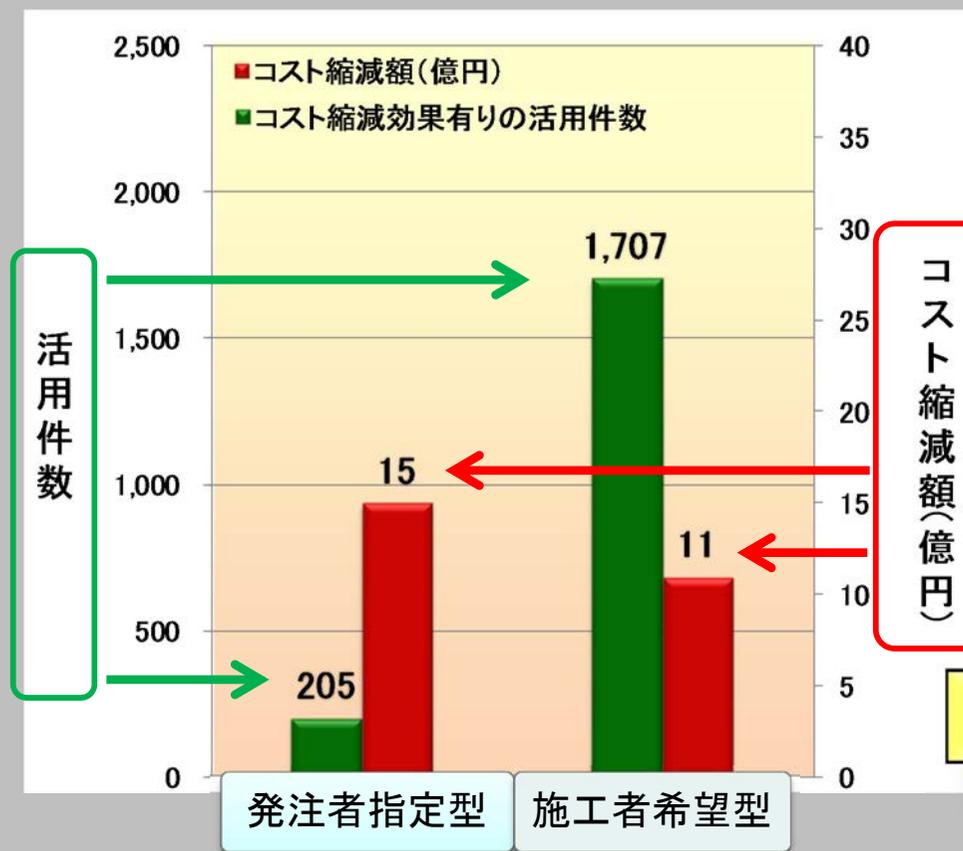
施工者希望型における活用件数の多い新技術（平成29年度）

順位	NETIS登録番号	技術名	副題	工種	有用な技術 (平成30年6月末現在)
1	CB-100037-VE	軽トラック積載対応型屋外可搬式トイレユニット	車載トイレ	仮設工	
2	KT-070054-VG	ジョインテックスCT-40	洗い出し不要の打ち継ぎ処理剤	コンクリート工	活用促進技術
3	KT-150006-VE	脂肪族系鉄筋防錆剤「サビラズ」「ハイサビラズ」	コンクリートとの付着を阻害しない鉄筋の防錆剤	コンクリート工	活用促進技術
4	CB-080028-VE	とまるくん(普通車用)・(大型車用)	道路工事現場での車両誤進入によるもらい事故防止	道路維持修繕工	
5	KT-140091-VE	インテリジェントマシンコントロール油圧ショベル	機体制御とICTの技術を活用したセミオート制御機能搭載油圧ショベル	土工	活用促進技術

※NETIS登録番号の末尾が「-AG」及び「-VG」の技術はNETIS掲載期間終了技術

◆九州地方整備局における新技術活用状況◆

経済性効果（コスト削減額平成29年度）



平成29年度における
新技術活用によるコスト削減

全体：約26億円
 (内)発注者指定型：
 約15億円（約60%）
 (内)施工者希望型：
 約11億円（約40%）

発注者指定型＝コスト削減効果高い

「発注者指定型」のメリット

- ・品質向上
- ・工期短縮
- ・コスト削減
- ・周辺環境対策

現場に適した**技術の選定**により
工事の品質向上に寄与

発注者指定型の更なる活用が必要

◆新技術活用（NETIS）による工事成績の加点◆

施工者希望型で「新技術」を活用した場合、工事成績評定で加点されます。

主任技術評価官が創意工夫（施工）において、1～3点の加点

加点措置

視点①

事後評価未実施と実施済で評価を分ける。

事後評価未実施技術の活用

事後評価実施済技術の活用

*「有用とされる技術」を用いた場合は +1点

視点②

活用したことによる効果を評価する。

活用の効果が相当程度

活用の効果が一定程度

活用の効果が従来技術と同程度

活用の効果が相当程度

活用の効果が一定程度

活用の効果が従来技術と同程度

※「相当程度」とは、大幅な工期短縮や飛躍的な施工の効率化が図られた技術など、工事推進に対して大きな効果をもたらしたものとする。

※「一定程度」とは、従来技術と比較して効果が認められる技術であっても、活用した工事全体としては影響が小さいもの、例えば使用する材料のみの技術等は一定程度とする。

配点

3

2

1

2+1*

1+1*

0+1*

◆九州技術事務所 新技術ポータルサイトの紹介◆

九州技術事務所HP

<http://www.qsr.mlit.go.jp/kyugi/>

九州技術事務所HP
トップ画面

国土交通省 九州地方整備局
九州技術事務所
(九州防災・火山技術センター)

九州地方整備局 災害情報
! 災害情報 (記者発表) ! 災害情報 (速報)

文字サイズ 小 中 大 サイトマップ

HOME 防災技術 建設技術 人材育成

建設技術

防災技術

建設技術

九州防災・火山技術センター

新着情報

【2018/05/29】災害に備えて災害対策用機械の操作訓練を...

【2018/01/19】I-Construction技術講習会開催のお知らせ。工(測量・出来形管理)の習得を目的と〜

新技術情報/NETIS

入札・契約情報

ホーム > 建設技術 > 新技術情報/NETIS (新技術ポータルサイト)

建設技術

新技術情報/NETIS (新技術ポータルサイト)

- ▶ 産学官の連携
- ▶ 地域連携・支援
- ▶ お知らせ
- ▶ NETISへの登録申請(申請様式etc.)
- ▶ 技術開発相談窓口のご案内
- ▶ 基本事項(NETISシステム・実施要領 etc.)
- ▶ お役立ち情報室
- ▶ 活用(活用計画書・報告書および活用効果調査表、工法抽出etc.)
- ▶ 評価(有用な新技術etc.)
- ▶ 登録(NETISの登録申請、九州で登録した新技術)
- ▶ その他(i-conの土工におけるICT関連技術一覧etc.)

技術開発・調査

新技術情報/NETIS (新技術ポータルサイト)

- ▶ 産学官の連携
- ▶ 地域連携・支援
- ▶ お知らせ
- ▶ NETISへの登録申請(申請様式etc.)
- ▶ 技術開発相談窓口のご案内
- ▶ 基本事項(NETISシステム・実施要領 etc.)
- ▶ お役立ち情報室
- ▶ 活用(活用計画書・報告書および活用効果調査表、工法抽出etc.)
- ▶ 評価(有用な新技術etc.)
- ▶ 登録(NETISの登録申請、九州で登録した新技術)
- ▶ その他(i-conの土工におけるICT関連技術一覧etc.)

◆新技術情報/NETIS（新技術ポータルサイト）の主な内容◆

基本事項

- ◆NETIS新技術情報提供システム(外部リンク)
- ◆新技術活用システム概要(動画)
- ◆「公共工事等における新技術活用システム」実施要領(外部リンク)
- ◆NETISの検索方法 ……等

登録

- ◆NETISへの登録申請(申請様式等)
- ◆九州技術事務所において登録した技術のデータ集(年度別)

評価

- ◆有用な新技術一覧(平成**年*月末現在)
- ◆九州地方整備局において評価を実施した新技術のデータ集(年度別)

活用

- ◆新技術活用計画書・実施報告書及び活用効果調査表(新様式)
 - ・新技術活用計画書・実施報告書及び活用効果調査表の記載例
 - ・新技術活用計画書・実施報告書及び活用効果調査表の留意点……等
- ◆工事区分別技術検索
- ◆工法比較検討の事例(案)
 - ・地盤改良(固結工法)による軟弱地盤処理工……等
- ◆九州地整で試行可能な試行申請技術一覧

お役立ち情報室

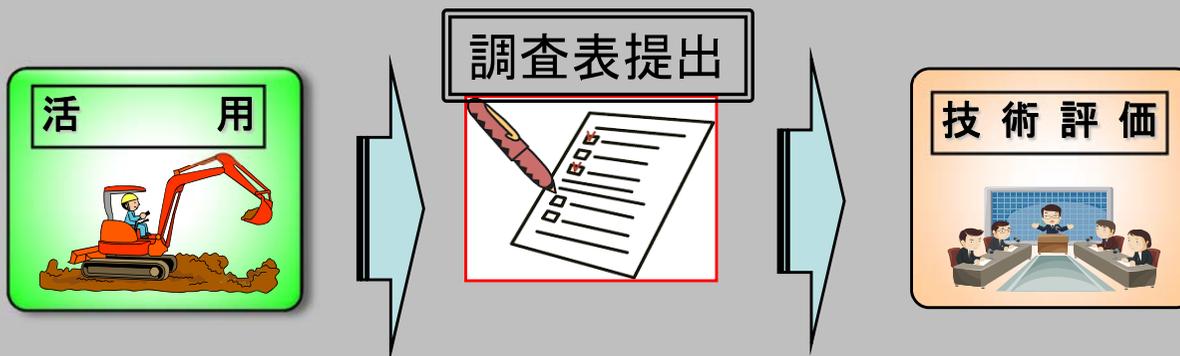
- ◆データ集
 - ・九州地方整備局管内の新技術活用状況の推移
 - ・九州地方整備局管内の活用件数の多い新技術……等

◆活用効果調査表について◆

活用効果調査表の提出義務付け

- ・工事特記仕様書(抜粋)
- ・土木工事共通仕様書(1-1-1-12-6 抜粋)
→ NETIS技術を活用した場合の活用効果調査表提出を規定

活用効果調査表を提出すると



●調査表の意義

- 【開発者】
 - ・NETIS掲載期間の延長
 - ・技術のスパイラルアップ
- 【施工者】
 - ・工事成績評定で加点
- 【発注者】
 - ・活用時の情報

活用効果調査表を提出しないと

開発者・施工者・発注者

NETIS掲載5年で終了

注意！
発注者・施工業者への苦情

活用効果調査表の提出を見逃している可能性がある技術

仮設工

手摺先行型枠組足場関連技術



身近な技術でも
新技術の可能性
があります！



新技術例

セフトパラペッター	CB-100024
セーフワークシステム	CB-150006
手すり据置方式先行手すり枠「ホリーアップ零」	HK-110027
次世代足場 Iqシステム	HK-140003
布板ずれ防止治具「エスプレート」	KT-160008
エア・フォールド	KK-080036
ミレニューム	KK-100081
先行手摺工法クサビ足場(商標名:アルバトロス、トリプルエース)	KK-150002
ファステック	KT-130098
キャッチャーシステム	KT-140017
ウルトラセフティーR	KT-140055
NDシステム	KT-160006

活用効果調査表の提出を見逃している可能性がある技術

仮設工

工事看板類



身近な技術でも
新技術の可能性
があります！



新技術例

間伐材工事立て看板枠	CG-090017
スクリーンサイン	CG-110025
工事看板用アルミ製Rストロング枠	CG-130013
ウインパスSL看板	HK-100038
透明板使用工事看板	HK-100042
間伐材使用看板木枠	HK-100043
エアメッシュサイン看板	KK-160007
マイクロプリズム型高輝度反射シート	KT-100087
工事看板用プリズム型再帰反射シート	KT-150092
防雪看板「風太郎」	KT-160001

活用効果調査表の提出を見逃している可能性がある技術

土工

油圧ショベル類



身近な技術でも
新技術の可能性
があります！

新技術例

iNDr搭載極低騒音型バックホウ	CG-100015
後方監視カメラ搭載油圧ショベル	CG-110011
ハイブリッド機構搭載油圧ショベル	CG-110016
省エネ油圧システムTRIAS搭載油圧ショベル	CG-130004
AIS機能付バックホウ	KK-100065
オートアイドル機能付ミニバックホウ	KK-120076
燃費低減型エンジン・油圧システム搭載油圧ショベル	KT-120012
燃費低減型エンジン・ポンプマッチング制御搭載油圧ショベル	KT-120070
待機燃費低減システム搭載油圧ショベル「REGZAMシリーズ」	KT-130022
低燃費油圧システム「スプールストロークコントロール」搭載油圧ショベル	KT-130076
燃費低減型クーリングシステム搭載油圧ショベル	KT-150003
HIOSⅢ搭載油圧ショベル	SK-110002
ハイブリッド機能付バックホウ	TH-120029

レンタル機でも新技術の
活用になります！！

